

令和5年度学校評価・関係者評価 報告書

加西市立加西中学校

学校教育目標

「自ら学び続ける、心豊かな生徒の育成」
～「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の定着を目指して～

本年度の重点

1. 組織運営
2. 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成と定着
3. 学びの意義の確立
4. 「教職員の資質」の向上
5. 「伝統文化」の継承と「地域愛」の育成

総合的な自己評価

今年度の自己評価、学校評価ともに、昨年度よりも大部分の項目で評価の平均値は上がっており、A評価の項目が増えている。昨年度の評価も一昨年度より上がっており、これは本校教職員一人一人の教育に対する真摯な姿勢と教育目標に向かって協働的に取り組む職場体制によるところが大きいと思われる。特に学習指導の評価においては、各教師が様々な工夫を行い、生徒の主体的な活動を生み出す授業づくりを実践していることがよくわかる。しかし、すべての教育活動において、個を大切にしたいきめ細やかな指導が求められるなど、業務改善においては限界の状態にあり、本校の教職員も例外なく多忙を極めた状態にある。

学校評価の方法についての学校関係者評価

学校評価については、自己評価と学校評価の2段階でアンケートを取っており、個人内評価と全体評価の双方が窺え、緻密な分析ができる仕組みになっている。自己評価の平均数値が学校評価の平均数値よりもほぼすべての項目において低くなっているが、年々自己評価の数値が上昇している結果から鑑みると、一人一人の教師が高い目標を持ち、より厳しく自己を振り返っている証拠であることが推察される。

総合的な学校関係者評価

教員数が減少しているうえに、新たな教育活動や様々な教育課題が提示される等たいへんな業務状態が続く中、教師集団が切磋琢磨しながら一丸となって教育に取り組まれていることに頭が下がる。特に、今年度は新型コロナウイルス感染症への厳しい対策が解除され、従来の教育活動に戻すにあたり、よりきめ細かな指導が行われている。そのため、生徒たちが様々な活動において生き生きと学ぶ様子が見てとれ、健やかに成長していくことが期待できる。また、一人一人の教師が教育への高い理想を持ち、協働して教育活動に取り組んでいるのは素晴らしいことであり、継続することによって目指す学校づくりに励んでもらいたい。

			評価項目ごとの学校関係者評価	
分野	評価項目・取組内容	評価	学校の取組状況・課題・改善の方策	自己評価結果および改善方策の評価
学 習 指 導	基礎的・基本的な知識・技能の習得に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着に向け、小テストや確認テストを繰り返し実施している。 ・グループワークを多く取り入れ、教え合い活動を増やすことで、互いの知識の確認や定着に役立っている。 ・授業内容や活動に応じた人数編成を適宜行い、効果ある形態で学習に取り組みせることができている。 ・学習規律はほとんどの生徒が定着しているが、自分たちで大切だと実感し、主体的に取り組めるように意識して声掛けを行っている。 ・単元や毎時の授業のねらいを明示し、生徒が意識して取り組む授業づくりを行っている。 ・STEAM教育に係る取組が時間的な余裕がなく不十分であると感じるので、意見交換できる授業研究の場があればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの全項目において昨年度の評価よりも高くなっており、教師の授業に対する取組のレベルが上がっていることが窺える。これは生徒たちの学力の定着において欠かせない要因であり、今後もさらにスキルアップに努めてほしい。 ・生徒たちは落ち着いた雰囲気での学習に取り組んでおり、教師の指示や問いかけにもしっかり反応できている生徒が多い。教師と生徒との関係性の良さが感じられる授業づくりが行われている。
	思考力・判断力・表現力の育成に努めている。			
	学習規律（時間・忘れ物・宿題・自主的発表）を確立し、学習に向かう姿勢や気持ちをつくらせている。			
	学習効果を上げるため、個別やグループ別指導等、効果的な指導形態の工夫・改善を行っている。			

学 習 指 導	毎時の授業のねらいを明確にするとともに、板書、発問、ワークシート等に工夫・改善を行っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・クロームブックで動画撮影して確認することで、生徒同士が互いに批評やアドバイスを送り合うことができている。また、個に応じた目標設定ができ、意欲も高まっている。 ・授業の視覚化において、ICT機器による説明用画面表示とまとめの板書との使い分けを行い、重要なポイントが分かるように工夫している。 ・教科横断的な学びを実践するために、教科間の情報交換できる場を設定できると効果も上がる。 ・忙しくて時間的に余裕がなくなると、OPPAシートを活用できず、単元や授業の振り返りが浅くなってしまう。 ・どの学年の生徒も試験の度数分布では2～3層に分かれており、学力差が広がる中で、英語・数学科における少人数学習を、教師数の関係で3年生しか行っていないのは不十分であると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数学習によるきめ細かな指導体制が築けないことは教職員の配置人員が関係しており、加配教員の要望を継続して強く行う必要がある。 ・ICT機器の活用やSTEAM教育への対応等、教師の業務は増え続けて大変であることが推察される。無理せず、工夫しながら取り組んでもらいたい。 ・コミュニケーション能力はあらゆる場面で必要不可欠なものであるため、全教育活動を通じてその能力の育成に努めることが重要である。
	生徒の個性や到達状況などを把握し、個に応じた指導により「わかる」「できる」を生徒が実感できる授業づくりに努めている。			
	各教科の特性を踏まえ、関わり学び合う学習、体験的・問題解決的学習を設定し、生徒が主体的に取り組む授業を展開している。			
	自らの授業を定期的に振り返り、STEAM教育への取組を含め、工夫・改善を加えている。			
道 徳 ・ 人 権 教 育	自他の生命を尊重し、人間的ふれあいを深め、思いやりのもてる豊かな心の育成に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教材の分析や振り返りには時間を費やし、常に研鑽を積んでいる。 ・心ない発言に対して、各学級で見逃さない指導が徹底されている。 ・校外研修で学んだ内容を校内で教職員に伝える場を設定し、学びの共有化が図られている。 ・違いを認め、支え合う意識の低い生徒もおり、人権意識が定着するには時間がかかると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育においては、講師を招聘した研修を継続して実施しており、生徒の人格形成に大変良い影響を及ぼしていると思われる。 ・日常的に人との繋がりを大切にする指導が行われており、生徒の人権意識も向上し、温かい雰囲気やクラスの学校づくりに繋がっている。
	道徳教育年間指導計画に基づき教材・資料を充実させるとともに、対話による授業力を向上させ、道徳的心情と道徳的判断力の育成に努めている。			
	自他の違いを理解し、違いを認め支え合い、共によりよい生き方に向かう姿勢を醸成している。			
	人権教育年間指導計画に基づいた指導を行い、身近な問題に気づき、考えることで、人権感覚を養っている。			
特 教 別 育 支 援	支援が必要な生徒の実態把握と教育的ニーズの理解をし、個に応じた適切な支援・指導を行っている。	B+	<ul style="list-style-type: none"> ・「個に応じた支援が必要な場面」か、「社会性を高める指導を行う場面」かを、見極めながらかわることを意識して指導している。 ・発達支援ファイルを活用し、支援内容の共有化は図れている。 ・授業中に適宜支援を行っているが、支援の必要な生徒の増加もあり、手が回らず、不十分な面もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導、適切な支援があらゆる場面で行われているので継続してもらいたい。 ・生徒の教育的ニーズの多様化や支援を必要とする生徒の増加等でますます大変になると思うが、一人一人の特性を十分に把握して合理的配慮や支援を行ってほしい。そのためにも、教員の人的配置の確保が必要である。

特別活動・総合学習・その他	好ましい人間関係とモラルのある集団生活が営まれる学級・学年づくりがすすめられている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本音をぶつけ合わせたり、大人としての関わり方を学ばせることで、人間関係が改善し、居心地の良いクラスに変えることができる。 ・生徒会や各学級のリーダーを中心に、日常の活動や行事等で生徒の主体性を大切にできている。 ・各行事において、生徒を活躍させるために事前の打ち合わせや指導を綿密に行うことで、成功体験を積んだ生徒は自信をつけてさらに意欲が高まっている。 ・各活動では事前事後の指導を大切に、日常生活の中につなげる指導ができている。 ・3か月計画を立案して見直しを持って取り組んでいるが、総合的な学習の時間についてはもっと綿密な計画が必要だと感じる。 ・創造的な力の育成については、まだ工夫が足りていないと感じる。生徒が自分たちでこうしたいと思わせる仕掛けづくりを考えたい。 ・部活動と学校生活との連携を図り、生徒が目標を持って伸び伸びと取り組めるように心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる場面において、生徒の主体性、協働性、創造力等を育むことを重視した取組を行っていることがよく分かる。 ・体育大会、音楽祭、オープンスクールでの授業の様子等を参観して、確固たる目標のもと、活動の過程や内容を重視した取組が行われていることが分かった。自信にあふれ、生き生きと活動している生徒たちの姿から、その効果は顕著であると感じられる。 ・部活動の現状として、生徒数や教師数の減少から部の数も減っている。地域移行への過渡期であるが、生徒にとって意義のある活動にしてもらいたい。
	生徒の主体的・協働的活動を支援し、生徒主体の学校づくりを通して、創造的な力の育成に努めている。			
	事前・事後指導を充実させ、意図的で計画的な特別活動や総合学習により、基礎モラル力と非認知能力の効果的な育成が進められている。			
	部活動の意義を理解し、達成感や満足感の体験を通して非認知能力の育成に努めている。			
生徒指導	基本的生活習慣の確立、規範意識の育成、基礎モラル力の向上に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・時間はかかるが教師が決めるのではなく、生徒に考えさせる機会を作ることで、自ら考え、判断し、行動する意識が定着している。 ・全員に対する同一指導だけでなく、一定の範囲の中でそれぞれの目標設定や指導の工夫を行っている。 ・学年の教師を中心に、学年会や生徒指導委員会を通して、問題行動や教育支援等の組織的な対応が徹底できている。 ・日常的に、教職員が互いにささいなことや気になることを相談できる体制になっている。 ・不登校対策として学年で情報を共有し、担任を中心に保護者やSC、SSWと連携した支援を行っている。 ・校内フリースクール「ひなた」が開室されるので、不登校生徒が踏み出すための場となるように連携、補助し有効活用していくことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導等の配慮を行いながら、一人一人の心に寄り添った指導が実践されている。 ・学校全体で一丸となった生徒指導体制が築かれており、落ち着いた学校環境が維持されている。 ・教育活動全般において、「自ら考え、判断し、行動する」生徒の育成が行われており、時間はかかるがその効果は大きく、問題行動件数の減少等にも表れている。 ・不登校生徒に対して、SCやSSWを含めたチームとしての取組を継続するとともに、どう生きていくのかということを含めた対策等を考えていく必要がある。
	生徒の実態をふまえ、厳しさと温かさのある生徒指導を実践し、自ら考え、判断し、行動する態度の育成に努めている。			
	円滑な報告・連絡・相談により職員の共通理解を図り、問題行動等への誠実で迅速な組織的対応が行われている。			
	生徒理解に努め、生徒や保護者が安心して相談できるようにしている。			
	不登校生に対し、家庭や関係機関(SC・SSW・総合教育センター等)と連携を図り、職員間の共通理解がある組織的な支援が行われている。			
キャリア教育	学年に応じた進路指導計画に基づき、社会人としての自立に向け、自己を見つめ、夢や目標をもって将来の生き方を考えるキャリア教育を推進している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の一環として外部講師を招き、仕事体験の総合授業を実施した。 ・教材の精選やワークシートの改善等の問題点は依然として多いが、十分な時間を確保することが難しい。 ・積極的に保護者と連絡を取り、生徒の考えを大切にしながら助言することができている。 ・教育相談の内容を学年や学校でも共有でき、協力体制のもと、一貫した指導ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアを積むための計画的で丁寧な指導が行われている。生徒が自分の将来を見つめ、目標に向かって困難に立ち向かっていける力を身につけさせてほしい。
	保護者と連携し、自らの意思と責任で生き方や進路選択ができるよう、教育相談の充実を努めている。			

<p>安全・防災教育</p>	<p>生徒の健康や安全に留意し、活動環境や活動状況を把握する等、安全対策に努めている。また、事故等の緊急時の体制を整備し、役割分担を明確にしている。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫した避難訓練を行う等、生徒や教師の防災意識の高揚や実践に生かされている。 ・緊急時に適切な行動がとれるように、平時から常に危機管理意識を高めていくことが大切である。 ・毎月の安全点検の重要性を再認識する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災学習の発表会や工夫した避難訓練の実施等、生徒の危機回避能力を高める手だてが行われており、評価できる。
<p>地域・家庭・社会と連携</p>	<p>学年・学級通信・配布物やHP・オープンスクール等により、学校の情報や教育活動の様子を家庭・地域に伝え、保護者及び地域の学校への関心を高め、理解と協力を得るよう努めている。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールや参観日が定期的に行われ、来校者も多く、地域に見守られている。 ・学級通信の作成において、これまでよりも保護者を意識するよう取り組み、学級の様子や指導理念を伝えられるように工夫している。 ・学校ホームページも随時更新され、学校の取組や生徒の様子を発信している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校から家庭や地域への発信がホームページを通じて随時行われており、今後さらに連携を深めるためにも、学校運営協議会もその連携の一助となるよう努める必要がある。
<p>教職員の資質向上</p>	<p>学校運営参画意識と貢献意欲をもち、分掌された校務を的確かつ効率的に行っている。</p> <p>自ら校内外の研修に積極的に取り組み、教職員としての資質、実践的指導力の向上に努めている。</p> <p>高い理想、目標をもって挑戦し続け、教職員プロとしての誇りのある指導を実践している。</p> <p>働き方改革の意識をもち、計画的で効率の良い業務改善を図り、他の職員を気にかける協働的な職場づくりを推進している。</p> <p>コンプライアンス意識の向上を図り、様々な危機管理意識をもった職務の遂行に努めている。</p>	<p>B+</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した研修には全力で取り組み、研鑽の時間として有効に使えている。 ・研究推進担当教師を中心に自主研修が行われており、教職員の教師力向上の意識は高く保たれている ・授業自己評価シート等のアンケートをもとに教科会で振り返ったり、相互授業参観を行って助言を受けたりすることで、全教職員が授業力の向上に努めている。 ・働き方改革、業務改善と言われるが、新たな取組や教員数の減少による分掌業務の増加により、一人一人の負担はより厳しくなっているのが現状である。 ・校内アンケートの結果から、教職員のコンプライアンス意識は高く保たれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が高い意識を持って研修に取り組んでいるのは素晴らしい。生徒の成長のために還元されることを期待している。 ・業務量の軽減や専門分野でない校務分掌等、教師の配置人数の関係で一人一人の負担は大きいですが、チームとして頑張ってもらいたい。 ・組織として、若手・中堅・ベテランの年齢バランスが均等であるのが望ましいが、配置的に難しいと思われるので、工夫して指導技術等の伝達をしてもらいたい。